

兵庫縣産蘚苔類雜記 (1)

建 部 惠 潤

私の蘚苔類に対する興味は遠く中学生の頃にさかのぼる。県立竜野中学校在学中、恩師中原辰男先生の御指導でたびたび蘚苔類の採集を行ったこと、同校には曾つて本邦蘚苔学の祖とも云うべき故岡村周諦博士が在職されたことがあつて、私の在学していた昭和8年4月来訪され、加うるに博士が私と同じく真宗寺院の出身であるといつた偶然まで手伝つて、当時はかなり蘚苔類に心を引かれていた。其後高等植物に専念して、次第に蘚苔類から遠ざかつてしまつたことは今にして思えば残念なことであつた。

兵庫県の蘚苔類調査は故大上宇一氏(西播)、故松島克生氏(東播)、故松沢重太郎氏(南淡路)、紅谷進二、宇野確雄両氏(六甲山系)、中原辰男氏(西播)等によつて行われたが、現在標本の所在不明又は散失したものが多く、加うるに苔類はほとんど採集されていない。又上記諸氏の採集地域は蘚苔類の豊産地とは云えず、但馬、播磨、丹波の山地は豊産地であるにも拘らず、全く未調査のまま残されている。なお、本邦蘚苔類の調査研究は近年發達の緒についたといつてよい状態で、苔類では特にこの感が深い。従つて前記諸氏の多くが検定を受けた、飯柴永吉、岡村周諦、笹岡久彦三先生の開拓時代から見ると非常に進歩があるので、たとえ残つていでも、前記諸氏の採集資料をそのまま肯定することは今日では無理が伴う。

以上の理由によつて県下各地から新たに多数の標本を得て確実な専門家の同定を受けると共に標本保管の必要が痛感されたので昭和23年以来居住する宍粟郡を中心に兵庫縣蘚苔類フロアの探究に着手した次第である。

本稿はこの調査によつて判明する分類分布上興味あるものについて書いて行く予定であるが、ここに日頃多数標本の御同定を賜るのみでなく、文献の惠与を賜り且つ御懇篤なる御指導を仰ぐ野口 彰、服部 新佐、高木典雄、鈴木兵二、新敏夫諸先生並びに採集、標本についてお世話になつている田川基二先生、山本寛二郎、中島徳一郎両氏をはじめ、近畿蘚苔類同好各位に対し厚く御礼申し上げる。(Nov. 10. 1953)

1. *Metzgeria himalayaensis* Kashyap

ヒマラヤカズノゴケ

産地: 宍粟郡富樫村皆河(サツキの樹幹樹枝)

山崎町(アラカン樹幹)、赤穂郡坂越町生島樹林(樹幹)

インド、ビルマ、日本(本州、四国、九州)に分布し、本州に知られたのは近年のことであるけれども、かなり広く分布するようである。新敏夫先生は神戸市摩耶山で採集された。①

2. *Metzgeria quadriseriata* Evans

ヒメカズノゴケ

産地: 宍粟郡船越山(岩上)

日本特産で四国、九州から報告されていたが近頃本州に産することが知られた。

3. *Trichocoleopsis sacculata* (Mitt.) Sh. Okam.

ミヤマムクムクゴケ

産地: 宍粟郡千種村鍋ノ谷国有林(約900m, 樹幹基部)

本種は高地性の苔類で、本州、四国、九州、屋久島に産し、朝鮮、ビルマに分布する。本属は岡村周諦博士の設立した特異な属で本種ただ一種が含まれる。

4. *Nipponolejeunea pilifera* (St.) Hatt.

クシゲリゴケ

産地: 神戸市六甲山(約800m, アカマツ樹幹)、宍粟郡千種村寺谷山(ツクシヤクナゲ群落中枯枝及び岩上、共に約1000m高)

本州、四国、九州、台湾に分布する高地性の苔類である。

5. *Drepanolejeunea tenuis* (Reinwardt, Blume et Nees) Schiffner

ヒメサンカクゴケ

産地: 宍粟郡河東村出石神社(モミ樹幹)

ジャワ、スマトラ、ボルネオ、フィリピン、南米、台湾に分布し、本邦では本州、四国、九州、屋久島、琉球、小笠原にわたつて広く産する。上の分布から見て大体熱帯要素と思われる。堀川博士は摩耶山で採集された。②

6. *Harpalejeunea intermedia* Evans

カギゴケ

産地: 宍粟郡安師村安志賀茂神社(アカマツ樹幹) 従来四国、九州から報告されていたが、近年本州及び屋久島から報告された日本特産品である。

7. *Plagiochila yokogurensis* St.

ヨコグラハネゴケ

産地: 神戸市有馬町つづみ滝(カエデ樹幹);

安栗郡山崎町 (アラカシ樹幹)

日本特産種で本州西南部、四国、九州、屋久島に分布する暖地性の苔である。有馬の標本は従来 *P. Okamura*, (= *P. yokogurensis* var. *Okamura*) とされていた型のものである。堀川博士が近畿地方の藓苔類にあげられた六甲山の標本は同時に有馬の同一群落から採られたものと思う。③ 又上村登氏の報告によると宇井縫藏氏も六甲山で採集している。④

8. *Frullania Inuena* St. トサノヤスデゴケ

産地: 安栗郡篤沢村岩上国有林 (樹幹)

日本特産種で従来四国にだけ知られていたが、近頃本州、九州に知られた。種名は井上 (吉永) 虎馬氏を記念したものであるが、ミスプリントで *O* が脱落したものである。

9. *Frullania kagoshimensis* St.

カゴシマヤスデゴケ

産地: 安栗郡奥谷村音水国有林 (樹幹)、神戸市六甲山、田川基二採集、樹幹)

本種も日本特産で四国、九州、屋久島に知られていたが今回本州に産することが判明した。

10. *Frullania Mayebarae* Hatt.

マエバラヤスデゴケ

産地: 養父郡関宮村 (岩上)

九州熊本県人吉市で前原勲次郎氏が発見し、服部博士が植物学雑誌第65巻13頁 (1952) に発表された新種で、服部植物研究所報告第8号30頁 (1952) に本種の Range として *Hn.* (nov.) (但し *Hn.* は本州の略) とあるのは本資料に基くもので、その後服部博士のもとへ送られて来た標本中に本州のものが、なお1ヶ所あつた由である。

11. *Frullania Schensiana* Mass

オンタケヤスデゴケ

産地: 安栗郡奥谷村音水国有林 (樹皮)

F. ontakensis は服部植物研究所報告 No. 8, p. 31 で本種の異名にされた。本州、四国、九州、屋久島及び支那に分布する。支那のものは服部博士によると1931年 Reimers が図入で *F. ontakensis* として1ヶ所記録しているとのことである。

12. *Cephalozia otaruensis* St.

ヤマトヤバネゴケ

産地: 安栗郡千種村鍋ノ谷国有林 (約900m, 地上)

最初北海道から記録された日本特産種で、北海道、本州、四国、九州から報告されているが産地の余り多くないものである。

13. *Lejeunea tosana* St. トサノコミミゴケ

産地: 安栗郡奥谷村音水国有林 (岩上)

四国土佐から記録された日本特産種。本州、四国、九州に分布する。

14. *Ptychocoleus nipponicus* Hatt.

ヒメミノリゴケ

産地: 安栗郡安師村安志 (アカマツ樹幹)

植物学雑誌第57巻358頁 (1943) に服部博士が発表された新種で微小な苔である。日本特産で本州、四国九州、屋久島、琉球に産する。

15. *Herberta Sakuraii* (Warnst.) Hatt.

コマノキリシマゴケ

産地: 神戸市六甲山 (乾燥地上)

本属植物は形態が藓類によく似ている。日本(本州、四国、九州、屋久島)、台湾に分布する。六甲山の有馬へ下る約 800m 高の地点の道路端で採集し、田川博士も同日この地点で採集されている。この採集は堀川芳雄博士の御指導であつて、博士も採られたと思うが、近畿地方の藓苔類には当日の採集標本があげてあるのに本種が記録されていない。

16. *Buxbaumia aphylla* L. キセルゴケ

産地: 安栗郡山崎町 (地上)、三河村船越山 (地上)

ヨーロッパ、シベリア、アムール、カラフト、北米に広く分布するが、本邦では久しく稀産品とされてきた。近年各地から報告されているが行くなみに目につくものではない。日本では北海道、本州に産する外野口博士の御教示によると四国からも知られている。近畿地方では大阪府葛城山中島徳一郎氏が採集された。上記産地では其の後何回採集場所を探しても見付からない。一度生えた場所に年々生えない特性があるようである。造胞体はきせる状をして大きいかかわらず栄養体の発達は極めて悪い。

17. *Buxbaumia Minakatae* Sh. (kam.)

クマノチヨウジゴケ

産地: 安栗郡船越山 (朽木)

日本特産の稀産品と考えられていたが、野口博士が京都大学の Faurie 採集の標本を調べられ Cardot が *B. aphylla* と同定した朝鮮産標本中に本種を見出された。⑤ 日本の産地は本州 (宮城県以南の太平洋側)、四国、九州である。 *B. aphylla* より一層奇異な胞子体であるが、栄養体の発達は極めて悪い。蔭湿な谷間の朽木に生じ、群生せず他の藓苔類に混生する。種名は故南方熊樵翁を記念したものである。船越山その他の近畿地方の産地については岡田清氏が服部植物

③ Hikobia, Vol. 1, p. 61 (1951)

④ 植物分類地理 Vol. 14, p. 111 (1952)

⑤ 服部植物研究所報告 No.8, p.19 (1952)

研究報告第10号56頁(1953)に報告された。船越山の標本は筆者の外、中島徳一郎、永井憲之両氏が所蔵している。

18. *Theriotia lorifolia* Card. クマノゴケ

産地: 安栗郡千種村, 船越山, 興谷村音水国有林, 神戸村, 三方村阿舎利国有林

本種は Faurie が朝鮮で採集した標本によつて Cardt が記載したもので、朝鮮、日本の特産で、本州関東地方以南の太平洋側、四国、九州、屋久島に産する。森林中の年中水にひたされている岩にかたく着生する特殊な生育状態にある。恐らく県下の森林地帯に広く産するものと考えられる。近畿地方にもかなり産地が知られており、宇野確雄氏は有馬、⑥ 堀川博士は神崎郡長谷村で採集されている。⑦

19. *Barbella Determesii* (Lem. et Card.) Fleisch.

トサノサガリゴケ

産地: 安栗郡興谷村赤西国有林(岩上), 三河村船越山(岩上), 三方村椋国有林(樹幹), 氷上郡柏原町(樹枝)

ヒマラヤから南支、台湾を経て日本に分布するもので、伊豆半島以西の太平洋側、四国、九州から報告されている。分布上興味のあるもので、赤西、椋岡国有林は産地の北限として特に注意してよいと思う。又生育地、着生基物によりかなり変異がある。

20. *Floribundaria nipponica* Noguchi

ヒロハシノブイトゴケ

産地: 安栗郡千種村, 船越山, 興谷村赤西国有林, 養父郡妙見山

本種は服部植物研究所報告第3号96頁(1948)に発表された新種で、本州、九州に産する日本特産種である。上記のいずれの採集地でも溪流にそつて谷間の樹枝に着生下垂していた。兵庫県山地には今後かなり産地が判明するものと思う。

21. *Meteorium helmintocladulum* (Card.) Broth.

コハイヒモゴケ

産地: 安栗郡船越山(岩上)

var. *cuspidatum* (Okam.) Noguchi

サイヨクサガリゴケ

産地: 安栗郡富樫村, 三河村船越山, 三方村福中, 城下村, 赤穂郡矢野村三濃山

基本種は朝鮮にも産する。本州(陸前以西の太平洋側)、四国、九州に分布する。基本種にくらべて変種は植物体が細く、枝先が少し尖つていて、葉の鋭尖部が短いので区別される。富樫村では豊富に産し冬期胞

子体の着生が見られる。樹幹、樹枝から下垂する。

22. *Orthomniopsis japonica* Broth.

ヤマトマチチヨウテンゴケ

産地: 安栗郡船越山(岩上)

最初(1908年)故岡村周諦博士が高知県石工山で採集され、Brotherus は本種のために新属を設立した。その後伊豆天城山、九州市房山、熊本県大野村、大分県深耶馬溪村で採集され、又近畿地方でも和歌山県、奈良県に数ヶ所産地が知られている。筆者も水谷正美氏が大阪府南河内郡岩湧山で採集された標本をいただいている。日本特産と考えられていたが、近年インド(アッサム)、ヒリツピンから発見された。菌柄が短いほかに、仮根がよく発達し茎の上方まで出るので *Mnium* と区別できる。なお船越山に産することは岡田清氏が服部植物研究所報告第10号56頁(1953)に報告されている。

23. *Forsstroemia dendroidea* Toyama

フトスズゴケ

産地: 安栗郡船越山(モミ樹幹)

朝鮮、日本(本州、四国、九州)の深山に産し、樹幹に着生する。植物体はかなり剛壮で外側へ反卷する。故外山礼三先生が植物分類地理第4巻、217頁(1935)に発表された。

24. *Thuidium Toyamae* Noguchi トヤマシノブゴケ

産地: 安栗郡千種村岩上, (岩上), 船越山(湿岩), 赤西国有林(岩上), 三方村阿舎利国有林(岩上), 富樫村(朽木), 安師村, 養父郡妙見山(中島徳一郎)

野口博士が植物研究雑誌第23巻、117頁(1949)に発表された。本種は *Th. cymbifolium* 及び *Th. japonicum* によく似ていて共に葉細胞の乳頭が単一であるが、本種では2~3又するものが著しい区別点である。従来兵庫県産本属で *Th. japonicum* として報告されていたものの多くは恐らく本種であろう。本州、四国九州に広く産し、兵庫県でも将来各地で採集されると思う。種名は故外山礼三氏を記念したものである。

25. *Cryphaea cbovato-carpa* Sh. Okam.

クワノイトヒバゴケ

産地: 養父郡八鹿町棕色(中島徳一郎氏、クワ樹幹) 安栗郡富樫村皆河(クワ、カキ樹幹)

本種は普通クワの樹幹を好んで着生し、又カキなどにも着生する。日本特産で本州(東京都、伊豆半島、愛知県、大阪府、京都府、広島県)、四国(松山)に知られていたに過ぎない稀品であるが、中島氏は上記標本を採集され、1部を恵与下さつた。なお故松島克生氏が加東郡小野町で採集、故岡村博士の同定を受けた記録がある。⑧

⑥植物研究雑誌、Vol. 21, p. 61 (1947)

⑦Hikobia, Vol. 1, p. 77 (1951)

⑧兵庫県博物学会誌 No. 16, p. 105 (1938)

var. *crispa* (Sw.) Bryol. eur. タマゴケ
リンゴゴケ
産地: 実栗郡船越山 (岩上)

基本種タマゴケは各地に広く産する普通種である。変種はヨーロッパ、アジアに分布し、本州、四国、九州から知られている。基本種にくらべ蒴柄が茎より短く、蒴が沈生する。また葉はタマゴケより短く細い。船越山池谷で観察すると変種は低温部に、基本種は上部の稍温かい部分にはつきり生育する場所を異にしているのが見られる。

27. *Nanomitrium tenerum* (Bruch.) Lindb.

ナリタゴケ

産地: 揖保郡林田村鴨池群の一池底

ヨーロッパでも日本でも稀品とされている。それは池沼の乾いた泥土上に生ずる微小種で採集される機会が少ないからであろう。1910年故飯柴永吉氏が仙台で採集して以来、名古屋、新潟県角田、熊本県荒尾市に知られている外報告がないが、今後干上つた池底の泥土に注意すれば多くの産地が知られるであろう。溜池の多い東播では特に採集される可能性が多い。野口博士の御同定によると鴨池産は var. *longifolium* (Philib.) Limpr. に相当する。

28. *Hymenostomum edentulum* (Mitt.) Besch.

産地: 実栗郡河東村須賀沢峠 (風化した岩上)

熱帯アジアから台湾、日本(本州)に分布する。吉野善介氏が岡山県高梁町で採集して以来2回目の産地が判明した。なお種名が検定されなかつたが飾磨郡鹿谷村で本属の標本を得ている。

29. *Neckeropsis Lepineana* (Mont.) Fleisch.

セイナンヒラゴケ

産地: 実栗郡富樫村 (岩上)

本種は熱帯アジア、南太平洋諸島、東部アフリカなど熱帯地方に広く分布する熱帯要素で台湾を経て日本に及んでいる。野口博士によると、熱帯では樹幹に着生するが、日本、台湾では石灰岩地に不連続分布をする顕著な例としてあげられた。大形の美しい蒴であるが、南の暖い地方程大きくなるようである。日本では本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州、琉球の石灰岩地に点々と産するが、裏日本ではまだ採集されていない。同属の *N. nitidula* (兵庫県の山地には普通) とは葉形から肉眼ではつきり区別できる。

30. *Cyathophorella Hookeriana* (Griff.) Fleisch.

コキジノオゴケ

産地: 実栗郡船越山 (樹幹)

シツキム、ヒリツピン、台湾、日本(伊豆半島以西の本州、四国、九州、奄美大島)に産することが知られ

る。このものを新種 *C. densifolia* とされたが、野口博士によつて同一種であることが明らかにされた。樹幹の凹部や根元に小群落をつくつているのが見られた。

31. *Cynodontium fallax* Limpr.

産地: 実栗郡船越山 (岩上)

筆者が船越山で採集したので新しく日本に知られ、野口博士は植物研究雑誌第27巻、121頁(1951)に報告された。本属は高山乃至亜高山帯に産するが、わずか500mに足りない船越山池ノ谷夏期低温地帯に生育するのは、この特異な環境に適応したものと考えられる。分布はヨーロッパ。

追記・本稿は服部植物研究所長服部新佐博士(苔類)、大分大学教授野口彰博士(蘚類)の御校閲を賜り、又京都大学田川基二博士の御教示をいただいたことを記して厚く御礼申上げる。

新刊紹介

井上三義先生著 兵庫県植物目録

(謄写印刷57頁、美本)

本書は謄写印刷であるが専門家の手で印刷されているので、出来栄は極く鮮明である。

現在理科教育が郷土に則した教育の叫ばれる折柄、真に当を得た待望の書物である。日常学校で各種の植物図鑑を開く時にどれだけ時間的に節約され、正しい植物名を釣り出すことが出来るか知れない。県下の人々を代表して感謝したい書物である。

著者は昭和16年から余暇を利用して兵庫県植物目録の編集を初め現在膨大な原稿を作つたのである。本書は著者の採集観察を主として、それに今までに発表された218篇の研究をまとめたものである。また特に産地は一々原拠を掲げ詳記してあるので羊歯以上の研究に、採集指導に必携の参考書である。残念なことは経済上の制約で全部を発表することの出来なかつたことである。この度は県下を摂津、播磨、淡路、丹波、但馬に大別して分布を判りやすくしている。

この冊子は著者の自費出版によるので御希望の方は同氏に直接御注文を乞う。

(室井 紳)

実 費 120円 (10円切手代用可)

申込所 水上郡柏原町 県立柏原高校 井上三義宛

なお、同先生は、昨年5月、第6回総会の時に出席者全員に分布詳説、兵庫県植物目録(羊歯植物篇)27ページを無料配布された。残部が25部ありますから御希望の方は同先生へ御申込み下さい。この冊子は同校校友会の補助刊行されたもので無料送呈される由。